

2019 年度

さわやかジュニア杯
大会規定

さわやかジュニア大会事務局

さわやかジュニア杯大会規定

1. 大会

- ①朝霞市・志木市・新座市・和光市の四市内に在籍する少年野球チームの小学四年生以下の男女とする。
- ②大会参加費は各チーム五千円とし、組み合わせ抽選会当日に納付とする。
- ③大会はトーナメント方式で行う。
- ④大会参加全チームにより抽選を行い、対戦相手を決定する。
- ⑤試合の全般的ルールは、原則として「公認野球規則・学童の部」を適用するが、別にさわやかジュニア野球連盟の特別規則及び各グラウンド毎のローカルルールを採用する。
- ⑥大会運営及び大会中の問い合わせ・確認等については、大会の責任者にする。
- ⑦四市以外のチームの参加については、連盟の許可を得て参加とする。

2. 表彰

- ①優勝チーム 優勝カップ・賞状・金メダル15個
- ②準優勝チーム 準優勝カップ・賞状・銀メダル15個
- ③3位2チーム 3位カップ・賞状・銅メダル15個

3. 登録名簿

- ① 大会選手登録は20名位以内とし、登録名簿を3部作成して提出し、抽選会当日に運営委員の確認押印後、1部をチームの控えとする。また試合毎に必ず持参し、試合開始前に相互交換をする。
- ② 登録時点でチーム編成が出来ない場合は、同一市町村の9名未満の複数チームが統合して出場することを認める。合同チームと呼ぶ。
- ③ 合同チームに於いてユニフォームは混同でも構わないが、背番号は連番とする。

4. チームの義務

- ① 開会式は全チームが参加し、各チームプラカードを持参すること。
- ② 閉会式は上位4チームが参加し、プラカードを持参すること。
- ③ 会場となるグラウンドの使用は利用方法を厳守し、試合終了後はグラウンド整備をする事。

<審判>

- ① ブロック予選大会においてはチーム審判員制度を採用する。
- ② 本部決勝大会（準決勝以上）は当連盟審判部により行う。

■審判に関する確認事項

- ① 1チーム2名のチーム審判員を出すこと。(チームが棄権した場合も必ず出す事)
- ② 審判員は、審判服及び審判帽の着用を義務付ける。
- ③ 審判員は、試合開始時刻の30分前に集合すること。

- ④ 最終試合の審判員は、グラウンドを整備して帰るようお願いします。
- ⑤ 当日の朝、雨天等による決行又は中止の判断について
 - ・ブロック決勝までは、各グラウンド提供チームに問い合わせを行う。
 - ・準決勝以後は、大会責任者が行き、その判断は、1時間前までに行い、該当チームに連絡する。
- ⑥ グラウンドに集合した後での雨天等による中止又は続行の判断は、担当の審判員とグラウンド責任者が合議で決定する。
試合途中の場合は、両チームの監督の意見を聴取してはならない。
- ⑦ 審判員は、必ず当該グラウンド責任者にグラウンドルールを確認し、両チームの監督に伝え、徹底する。
- ⑧ 審判は、組合せ表の若番が主審・二塁、老番が一塁・三塁とする。

■野球場について

- ・野球場については、小学校の場合諸々の障害物があり、広さも一様ではないため、各会場毎にローカルルールを採用する。
但し、基本的なグラウンド寸法については正確にラインを引くこととする。
 - ・グラウンド責任者は、グラウンドについての諸注意がある場合（ローカルルールを含む）は、その内容を試合前に担当審判に伝える。
- ① ファウルラインは出来るだけ長く引く。
 - ② ファウルラインが障害物を避けて引いてある場合、審判員は試合前に確認し、両チームの監督にも説明を行う。
 - ③ グラウンドにロープが張ってある場合、特にベース付近では危険防止のためロープを埋めるなどの措置をして安全を期する。

◆競技運営に関する確認事項

塁間距離	21メートル
投手板から本塁までの距離	14メートル
試合数とイニング	6イニング・1時間30分
試合球	健康ボールJ号級を使用。2個ずつ出す
登録選手と登録	20名以内、4年生以下
ユニフォームと背番号	監督・30、コーチ・28、29 選手、主将10、0～27までとする
点差によるコールドゲーム	3回 15点 4回 10点
同点の場合6回終了（時間切れ）後同点	試合開始90分を過ぎたら新しいイニングに入らない。 タイブレーク制（2イニングまで）で勝敗を決定する。

○タイブレーク制（全日本軟式野球連盟延長戦に関するルール）

- ・継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、順次前の打者を2塁走者・3塁走者として・・・無死満塁の状態ですべて2イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。
- ・それでもなお勝敗が決しない場合は、「抽選」で決定する。

<抽選の方法>

抽選用紙に○印、×印を各9枚記入し封筒に入れ、最終出場選手により先攻チームから1枚ずつ交互に抽選し、○記しの多い方のチームを勝ちとする。

- ① 連盟の規定及び大会規則を遵守し、大会運営を円滑に進行させる。
- ② 大会中の連絡は、大会責任者に連絡のこと。
- ③ 学校行事による調整は、一週間前に届け出のない場合は原則として認めない。
但し、学校行事は主力校に限り1回のみ認めるものとする。
- ④ 登録名簿の交換は試合前に行うこと。
- ⑤ 試合開始時刻は指示された時間を厳守し集合は試合開始30分前とする。
- ⑥ ベンチ（石灰で明示された）内に入るのは、監督（背番号30番）・コーチ（背番号28・29番）・代表・スコアラーの5名、及び登録された選手（主将10番を含む0番から27番）のみとする。
※監督(30)・コーチ(28・29)・代表・スコアラー以外のコーチや父兄のベンチ入りを禁止します。
※監督(30)不在の時は、29番又は28番のコーチが監督を代行する。
但し、試合前に審判に届け出ること。
- ⑦ ベンチは組合せ表の若番が1塁側、老番が3塁側とする。
ただし、公式球場では大会本部の指示に従う。
- ⑧ 父兄の応援席は、ベンチより外野側とする。
- ⑨ 指導者及び応援席の父兄による相手選手へのヤジは、内容を問わず禁止する。
誘いボーク等、選手を惑わす言動があった場合は、1度目は注意、2度目は監督退場とする
- ⑩ ランナーはホームイン後ベンチ入りするまでベースコーチ、次打者等との接触は一切禁止する。(ハイタッチ等) (罰則規定1条)
- ⑪ 試合の成立は、両チームが均等に3回終了もしくは試合時間が60分を経過した時点。それ以外は再試合とする。
したがって、試合途中の降雨又は日没で中止した場合、これを基準にコールドゲームを宣言する。
- ⑫ 小学校では、全面「禁煙」です。グラウンド責任者の指示に従って下さい。

■ルールの確認について

- ① 投手の牽制球について
投手の牽制球が悪送球等により送球がボールデッドラインを超えた場合

⇒投手がプレートを踏んでいるいないにかかわらず、走者にワンベースの進塁権を与える。

② ランダンプレーについて

ランダンプレー中に悪送球等により送球がボールデッドラインを超えた場合

⇒その走者がそのプレーが行われる直前に占有していた塁を基準として、走者に2ヶの進塁権を与える。

③ ボークについて

ボークは、1回目は注意とし、それ以降は各審判の判断とする。

但し、明らかにボークの場合はこの限りではない（1回目からボーク）。

（解説）例えば、

(1)送球の際に肩が動いた、あるいはセットポジションの際静止がない・・・等
⇒1回目は注意とする。

(2)投球動作に入ってからボールを落とした、あるいは投球動作を中止した・・・等⇒
ただちにボークを宣言する。

④ タイムについて

監督が同一イニングに同一投手を2回呼ぶか、伝令を使うか、捕手又は他の選手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。但し他の守備位置につくことは許される。

尚、他の守備位置についた時は、同一イニング内に再び投手に戻れる。

⑤ 捕手を含む内野手が1試合に投手の所に行ける回数は3回までとする。（ただし監督と共に行った場合除く）

なお延長戦（特別延長戦）になった場合は2イニングス1回とする。

⑥ 監督の指示はグラウンドに出て指示することができる。監督はマウンドへの行帰りは小走りでスピーディーに行なう。

⑦ ナチュラルカーブについて

1度目の注意で直らない場合は、投手交代とする。

⑧ ボールデッドライン付近の飛球を捕球した場合について

(1) 野手の捕球位置が片足でもボールデッドラインを超えてしまった場合は、捕球とみなされずファールボールとする。

(2) ラインの内側で捕球後、勢いでボールデッドラインを超えてしまった場合は、インプレーとし通常の野球規則を適用する。飛球をラインの内側で捕球後、ラインを超えて倒れ込み送球動作が不可能になった場合は、打者はアウト、走者はその位置を規準として各走者に1個の塁が与えられる。

⑨ 試合中に雷が発生した場合の処置

連盟役員・審判員は、直ちに試合を中止して全員を避難させる。尚、遠くに雷が発生した場合でも、状況を判断して危険のない場所に避難させること。

木製バットによる試合継続は禁止する。

⑩ 投手の準備投球は、初回（救援を含む）に限り7球以内（1分を限度とする）、次回より3球以内とする。同一投手の再登板は5球以内とする。

⑪ コリジョンルールについて

走者を妨害になる様な危険なブロックなどは禁止とする。（走塁妨害）

■特別注意事項

- ① 試合開始前のノックはシートノックのみとする。ノックするコーチは必ずユニフォーム着用とする。
※2ヶ所ノックは危険防止のため禁止とする。
- ② バッティンググローブは着用可。但しリストバンドは不可とする。
- ③ 投手について手袋、サポーターなどの使用を禁止する。なお負傷等で包帯・テーピング等必要な場合は試合前審判員に申し出て許可を得る。
- ④ ウエーティングサークルにマスコットバット及び素振り用パイプ、リングは禁止する。
- ⑤ 各市会場の基準のホームベースで行う。本球場などあらかじめホームベースが固定されている場合はそのベースを適用する。
- ⑥ ユニホームのズボンはストッキングが3分の2以上見えるようにきちんとはく。捕手は投手の準備投球も含め防具を着用すること。(マスク・プロテクター・レガース・ヘルメット)、捕手用具は原則として2セット用意すること。
- ⑦あまりにインターバルが長かったり、無用な牽制が度を過ぎるとペナルティーを課すことがある。(審判員の判断による)(罰則規定1条)
- ⑧事故防止の為にキャッチャーのファウルカップの着用を推奨します。

■罰則規程

- 1条：各確認事項の条項に違反した場合は、次戦の試合の監督のベンチ入りを認めず、代理監督(登録された背番号29番又は28番のコーチ)で試合を行う。

平成27年9月5日をもって施行する
令和元年 8月25日 改訂